

## ●指導の実際〈各委員会の取組〉

### 1 学力向上推進委員会

#### ○ 3校合同研究授業・研究協議の実施

年間3回の合同研究授業（道徳）及び研究協議を実施し、開催校の全教員及び他校の管理職、研究主任、本事業担当教員が毎回参加している。

また、各校が実施する授業研修にも、可能な限り3校の教職員が参加している。小中連携を図り、共に授業研究・研究協議を行うことで、取組の共通理解を図りながら、9年間を見通した効果的な指導につなげている。

#### ○ 出前授業の実施

中学校入学への不安を少しでも取り除くため、毎年3学期に中学校教員が小学校へ出向き、「出前授業」を実施している。

中学校教員が「中学校を感じてもらえる授業を」という想いで授業に臨み、児童は日頃とは違う雰囲気での学習に驚きながらも、中学校入学への期待を膨らませる機会になっている。



体育科の出前授業

### 2 生徒指導推進委員会

#### ○ あいさつへの取組

江田島市全体で徹底を図っている「時間を守る」「挨拶をする」「返事をする」の三項目について、江田島中学校区では、校区で連携し挨拶をすることへの意欲を高める取組を行っている。「挨拶の達人」や「あいさつ名人」等、手本となる挨拶をしている児童生徒を表彰したり、名前を掲示したり、各校が工夫しながら取組むとともに、推進委員会では各校の取組を発表し合う、実践交流の場も設けている。

### 3 児童・生徒間交流推進委員会

#### ○ 部活動指導・部活動交流

毎年10月に実施される小学校陸上記録会の前に、中学校陸上部の生徒が小学校へ出向き、小学生へ専門的な指導を行っている。また、1月には、入学説明会と体験入部を実施し、小学生が希望する部活動での体験を行い、中学校入学への意欲を高めている。

#### ○ 小・中合同あいさつ運動

毎月1日と15日の2回、中学生が登校時間に小学校へ立ち寄り、小学生、教員、保護者とともに校門であいさつ運動を実施している。

短い時間ではあるが、卒業した中学生が元気な姿を見せ、毎月合同で行うあいさつ運動は、児童・生徒だけでなく、地域・保護者とのつながりを深める場にもなっている。



## 〈成果（○）と課題（●）〉

- 小学生にとって中学生の影響はとて大きく、連携により学びが深まることが分かった。陸上教室やボランティア清掃等、小・中学生が関わる場を多く設定したことで、小学生が中学生に対する憧れを持つとともに、活動に対する小学生の意欲が高まった。また、中学生は母校の小学生と関わることで、自己存在感を高めている。
- 今後も、学校間異校種間の関わりを深め、校区で目指す児童生徒像の共通理解をさらに図り、足並みをそろえて指導・評価できれば、より効果的な取組となると考える。